

令和3年度 調布市立第三小学校 学校評価報告書（学校長 辻 久恵）

学校の教育目標		
○情操の豊かな子ども	○自主的に学ぶ子ども	○明るく健康な子ども
目指す学校像(ビジョン) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
○児童にとって 満足感・達成感・安心感のある学校→他者の成長を互いに認め合い、一人一人の子どもの居場所がある学校		
○保護者・地域にとって 親しみと信頼のある学校→誠意ある対応をするとともに、情報を発信する学校		
○教職員にとって やりがいと充実感のある学校→切磋琢磨し、教職員・児童の伸びが実感できる学校		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 道徳教育の全体計画、年間指導計画、別業に基づき、昨年度の校内研究で培った「板書の見え化」を活用した道徳授業を毎週行い、自己を見つめる児童を育成することができた。	① 系統的・横断的なプログラミング教育の年間計画に基づき、主体的・対話的で深い学びの学習スタイルを確立することができた。	① 日常的にマスク着用、正しい手洗い、三密回避の指導を徹底させるとともに新型コロナウイルス感染症対策の指導を年3回以上行うことができた。
	② 異学年交流活動の推進に加え、「SOS の出し方」「SNS 東京ルール」等の取組により自分も友達も大切に児童の育成を図ることができた。	② GIGA スクール構想に基づき、児童一人一台タブレットを活用した授業を展開及び、教師用タブレットとプロジェクターを1日1回以上活用することができた。	② 「わくわくタイム」「マラソン旬間」「なわ跳び旬間」「ロング休み」や「体力テスト」の分析を通して、体力向上を図ることができた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
学校関係者評価	① 学校アンケートで「豊かな心」の項目で肯定的な回答が90%以上であった。	① 学校アンケートで「学力」の項目で肯定的な回答90%以上であった。	① 学校アンケートで「新型コロナウイルス感染症対策」の項目で肯定的な回答90%だった。
	② 学校アンケートで「人間関係」の項目で肯定的な回答が90%以上であった。	② 学校アンケートで、「授業が楽しい」と肯定的な回答が90%を達成した。	② 学校アンケートで「体力」の項目で肯定的な回答が90%を達成した。
	○データから良好な「人間関係」の中で「豊かな心」が育成されているととらえる。「休み時間も一緒に遊び、様子を見てくれる。」という声も届き、あいさつ運動や読書循環、いのちの授業等の取組も功を奏している。これからも「自分も大切、友達も大切」という校風を継続してほしい。	○データから家庭学習やICTの活用により楽しい授業が行われ、学力の定着についてはほぼついていけるととらえる。「タブレットを活用した学習をいち早く取り入れてくださり、感謝している。」という声も届き、令和4年度の調布市教育委員会研究推進校の研究発表に向けて、さらに研究を深めることに期待している。	○データから新型コロナ対策、体力についてはほぼ定着しているととらえる。「日頃から感染症対策への取組に感謝している。」という声も届き、今後も体力テストの分析を行い、安全、安心の環境で体力向上に向けた取組を継続してほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	5 保護者・地域との連携	6 食育の推進
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 〆光' ック・パ' リ光' ック教育推進校及びア' ワ' ド校の指定を受け、ア' ワ' ド調布のもと「障がい者理解」を中心に5つの資質育成を図ることができた。	① 週1回以上校長通信及びホームページをアップして情報発信に努めることができた。また、ソフトボール大会に向けて全面的に協力することができた。	① 保護者と児童が食に関心をもつように毎日給食写真と一口メモをホームページにアップした。「おすすめ給食日記」の発信もできた。
	② 「世界のお友達プロジェクト」の一環としてオリンピック・パラリンピック観戦や世界の料理に親しむこと等を通して「豊かな国際感覚」を培うことができた。	② 「地域学校協働本部」のコーディネーターを中心に地域全体で児童を育成する体制を整備し、その状況を学期に1回以上「地域学校協働本部だより」で発信できた。	② 新しい配膳、食事の仕方を定着させるとともに、教職員のアレルギーシミュレーション研修、調理員、栄養士、担任、管理職によるアレルギーチェックを毎日確実に行った。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
学校関係者評価	① 学校アンケートで「〆光' ック・パ' リ光' ック」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。	① 学校アンケートで「情報発信」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。	① 学校アンケートで「食育」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。
	② 10か国以上の料理や特徴の学習ができた。	② 学期に1回以上おたよりを発行することができた。	② アレルギー事故ゼロを達成できた。
	○データからオリンピック・パラリンピック観戦やパラリンピアン招致及び世界の料理を通して、オリンピックパラリンピック教育の推進が図られているととらえる。「パラリンピアンの話は心に響いたようである。」という声も届き、2020東京大会を経験し培った力を基に、さらなる飛躍を願っている。	○データから地域学校協働本部の活用及び情報発信について十分なされているととらえる。「できるだけデジタルにシフトしてほしい。」という声も届き、コロナ禍で情報交換が十分ではない時期ではあったがホームページによって共有できたことは価値があった。今後さらに連携を深めてほしい。	○データから食育の指導、アレルギー対応ができていけるととらえる。「アレルギー児童へのチェック体制は素晴らしい。」「ホームページの写真を見ながら給食の話をする。」という声からも充実していることがよく分かる。今後も食育の充実とアレルギー事故ゼロを継続してほしい。

人材育成・組織運営

自己評価	○学年集団、各部会において主幹教諭、主任教諭を中心にOJTの計画・実践を通して互いに学びあう教師集団を築くことができた。 ○管幹(管理職と主幹教諭)会議、運営委員会、学年主任会を活用し、経営方針の浸透及び教職員の考えの把握により組織的にトップダウン、フォローアップのバランスを保つことができた。 ○令和3、4年度 調布市研究推進校の指定を受け、一丸となって校内研究に取り組むとともに、研修・キャリアを活用して授業力向上を図ることができた。
学校関係者評価	○組織的な取組ができていいる。教員の学びたいことを出し合い、得意分野を生かして講師を担うOJTの方法は、教員の力量を互いに高め合うことにつながっていると考える。 ○職層に応じた力がつけられるようなシステムになっている。コロナ禍の状況において、校長を中心に知恵を出し合い、トップダウン、フォローアップのバランスを保ちながら組織的な学校運営ができていいる。 ○研究推進校として、GIGAスクール構想のタブレットの活用の研究に取り組み、「個別最適な学び」と「協動的な学び」が効果的に行うことができていた。

中期的な経営目標の達成状況

1	特別支援教育の充実を図り、規範意識を高め、互いに認め合い支え合う子どもを育成することができた。
2	GIGAスクール構想に基づき児童一人一台タブレットを活用し、自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け学ぶ楽しさを実感する子どもを育成することができた。
3	コロナ禍において「新しい生活様式」を徹底させ、「自分の命」「他人の命」を守るとともに体力向上を目指す子どもを育成することができた。
4	オリンピック・パラリンピック教育推進校・アワード校として、国際社会に生きぬく子どもを育成することができた。
5	保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもを育成することができた。
6	正しくかつ楽しく食事をすることを通して心身の健全な発達を実感する子どもを育成することができた。
人・組	OJT、OFFJTを通して実力をアップさせるとともに、組織の一員として力を発揮できる「チーム三小」を創り上げることができた。

次年度の重点課題

1	一人一台のタブレットを活用し、自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け、学ぶ楽しさを実感する子どもを育成する。
2	保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもを育成する。
3	体力テストの結果をもとに自己の実態を把握し、体力、運動能力の向上を目指す子どもを育成する。
人・組	全教職員が同じ目標に向かって組織の一員として力を発揮できる「チーム三小」を創り上げる。教師は授業が命、OJT、OFFJTを通して授業力をアップさせる。

